病害虫発生予察指導情報
（果樹全般・カメムシ類　No.１）

平成３０年８月１６日
鳥取県病害虫防除所

１．情報の内容

８月第３半旬以降、予察灯におけるカメムシ類の誘殺数が急増しています。現在、果樹園への多飛来の情報は未確認ですが、カメムシ類の飛来状況は、ほ場間差が大きいため注意が必要です。ほ場の観察を徹底し、カメムシ類がみられる場合は、防除を実施して下さい。

２．情報の根拠

（１）８月第３半旬になって、予察灯におけるカメムシ類の誘殺数が急増している（図）。
（２）８月第３半旬現在、集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は少ない。
（３）８月第３半旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、無袋・殺虫剤無散布、ナシ、‘ゴールド二十世紀’）では、カメムシ類の飛来は未確認である。また、サンゴジュ実への寄生もみられていない。
（４）向こう１か月の気象予報は、カメムシ類の加害活動に好適な条件である。

３．防除上注意すべき事項

（１）カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択）。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
（２）防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
（３）合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
（４）ナシでは、シペルメトリン水和剤（イカズチWDG１，５００倍液又はアグロスリン水和剤２，０００倍液）、テルスターフロアブル３，０００倍液などを使用し、収穫前の防除を徹底する。なお、これらの剤はシンクイムシ類に対する効果も高い。
（５）各樹種の防除薬剤は表を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。

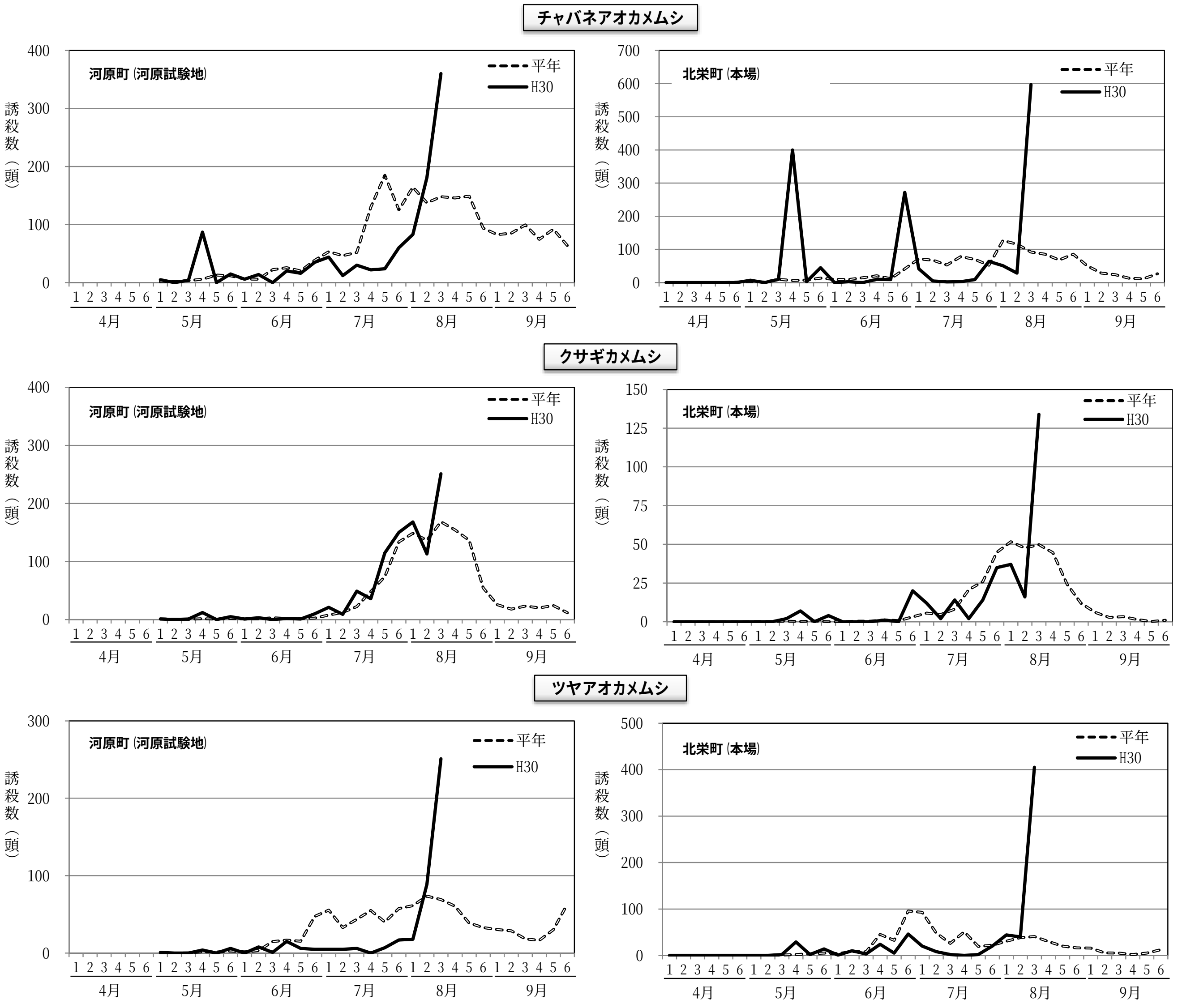

図　予察灯におけるカメムシ類の誘殺数

表　果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	薬剤の系統
ナシ	ジノテフラン水溶剤 （ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤 又はｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤）	2,000	収穫前日まで	３回以内	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	３回以内	合成ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ系
	シペルメトリン水和剤 （イカズチWDG）	1，500	収穫前日まで		
	テルスターフロアブル	3,000 ～ 6,000	収穫前日まで	２回以内	
カキ	ジノテフラン水溶剤 （ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤 又はｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤）	2,000	収穫前日まで	３回以内	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫３日前まで	３回以内	
	アグロスリン水和剤	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	３回以内	合成ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ系
ブドウ	ジノテフラン水溶剤 （ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤 又はｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤）	2,000	収穫前日まで	３回以内	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系
リンゴ	ジノテフラン水溶剤 （ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤 又はｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤）	2,000	収穫前日まで	３回以内	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系
	MR．ジョーカー水和剤	2,000	収穫１４日前まで	２回以内	合成ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ系

*農薬の登録内容は平成３０年８月８日現在